



Photo by Tetsuya Yamada

具体美術協会と関西学院卒業の芸術家

半田 まゆみ

海外に影響を与えた日本の美術として世界的に高く評価される「具体美術協会」は、リーダーの吉原治良をはじめ、村上三郎、嶋本昭三、吉原通雄が関西学院の卒業生です。

私は、大学を卒業してまもなく嶋本昭三に出逢い弟子入りし、亡くなるまでの27年間で海外での活動の際の通訳をはじめ、絵画制作の助手、身の回りのお世話にいたるまで家族のように共に過ごしました。「具体美術協会」について、嶋本の作品制作秘話などを中心に紹介させていただきます。

具体美術協会 GUTAI とは

「具体美術協会」（以下、「具体」）は、1954年に吉原治良のもとに、阪神間在住の若い芸術家たちが集まり、芦屋市において設立された美術家集団です。「具体」という名の提案者は嶋本昭三で、「われわれの精神が自由であるという証を具体的に提示したい」という理念に由来します。結成メンバーは17名で、最終的に約60名が参加し、1972年の吉原の急死を機に解散するまで18年間活動しました。

関西学院出身の具体美術協会作家

- 吉原 治良** (1905年1月1日～1972年2月10日)
1928年 関西学院高等商業学部卒業、絵画部弦月会
- 村上 三郎** (1925年6月27日～1996年1月11日)
1948年 関西学院大学文学部卒業、絵画部弦月会
1950年 関西学院大学大学院文学研究科修了
- 嶋本 昭三** (1928年1月22日～2013年1月25日)
1950年 関西学院大学文学部卒業
- 吉原 通雄** (1933年2月15日～1996年2月18日)
1955年 関西学院大学経済学部卒業



前列左から3人目が吉原治良
『高等商業学部卒業アルバム』1928年

嶋本昭三 吉原治良との出逢い

大学在学中の1947年、嶋本は遠縁の大住吾八氏の所に挨拶に行きました。大住氏は、関西学院最初の理系高等教育機関として1944年に設置された専門学校理工科の設立に尽力し、初代学科長に就任した人です。大住氏の長女閑子さんが描いた、女の人が裸で空を歩いている絵を見て、嶋本は「なぜこの人は落ちないんですか？」と尋ねました。すると、閑子さんは「絵というものは思ったことを描いたらよく現実でなくてもよい。それを絵空事という」と答えたのです。閑子さんの縁で「関西に天才的な抽象画家がいる」と紹介されたのが吉原治良です。吉原は吉原製油社長でした。「弟子を取って収入を得る生活ではないから弟子を取るつもりはない。しかし、世界で誰も描けなかったような作品を作ってくるなら、弟子にしてやる」と言われ、嶋本は吉原の一番目の弟子になったのです。

嶋本昭三 穴の絵

嶋本は毎週、100号ほどの大作を大八車に乗せて、甲子園口の自宅から芦屋市の吉原の家まで運びます。何度通っても、吉原はちらっと見るだけで、海外のだれだれの絵に似ているとしか言ってくれません。吉原は海外の雑誌や図録を見て知っていますが、自分は知らない。しかも、戦後、キャンヴァスは高価で、学生には買うことができません。そこで、新聞紙を何枚も重ね、メリケン粉を炊いてノリにしたもので張り合わせ、絵

を描いていました。ある日、まだ乾いていないうちに絵筆で描いたら、穴が開いてしまいました。「しまった」と思いましたが、時間がないので、そのまま穴を開け続けました。

それを持って行くと、初めて家の中へ入れてくれました。羊糞を出してもらい(当時、羊糞は高級)、「おまえは天才や」と言われました。「ただし、ほかの誰にも言うな。言うても理解してもらえない」と付け加えられましたが、初めて褒められた嶋本は嬉しくて他の人に見せました。案の定「こんなものは絵ではない」と馬鹿にされました。これは「具体」設立以前の、嶋本がまだ21歳だった大学生の時のことです。

嶋本の作品は、イタリアのルーチョ・フォンタナがナイフで切った絵と比較されますが、フォンタナは1955年に制作、嶋本は新聞紙の日付から1949年と判明。世界で初めて穴の絵画を制作したのは日本の嶋本ということになり、東京都現代美術館やロンドンのテートモダンに所蔵される代表作になったのです。

吉原治良の教え

吉原治良の教えは、「人のまねをするな、誰もやっていないことをやれ」です。そして、その指導は「ええ」、「あかん」だけです。絵の描き方は教えません。どこが悪いかも言ってもらえないので、自分で考えて次の作品を出さなければならないのです。

また、タイトルを付けず「作品」とするだけなのは、絵に文学性をいれるなという考えです。関西学院会館2階に村上三郎の1961年具体展出品絵画が飾ってありますが、そのタイトルも「作品」です。1階には吉原通雄の1993年の作品がありますが、タイトルは「無題」です。

さらに、吉原の言葉といえば「ハッターをかます」です。実際よりも大げさに表現するというということです。これは、明治生まれで、敗戦国の人間がフランスやイタリアの作家にかなわないと言っていた吉原が、世界に向かって挑んだ意気込みではないでしょうか。

具体美術協会の特徴

具体の特徴は、第一に、ハプニング、アクション・ペインティングやパフォーマンスを芸術として表現したことです。吉原と嶋本らは、西宮の海清寺に南天棒(中原 鄧州^{とうしゅう}、1839年5月15日<天保10年4月3日>~1925<大正14>年2月12日)の書を見に行きました。モナリザの絵はレオナルド・ダヴィンチが何時間、何年間かけて描いたのか分かりません。しかし、書はスピード感が分かります。絵画に時間性を取り入れることを思いついたのです。

村上の紙破りは、長男知彦さんがふすまを破って出てきたのをヒントに、ハプニング性と音で表現されています。1956年、嶋本は工場から鉄管を分けてもらって大砲を作り、ビニール袋に油性絵の具と水性絵の具を一緒に入れ、そこにカーバイトを加えて水をたらし、発生したアセチレンガスに火をつけて爆発させ、10m×10mの大作を制作しました。そこから、薬用瓶に絵の具を入れ、石にぶつけて破裂させて描くビン投げ手法に変化してゆきます。

第二に、1955年から機関紙『具体』を継続的に発行したことです。甲子園口の嶋本宅でガリバン印刷し、65年まで12冊を発行しています(2010年、藝華書院より復刻版が刊行されました)。部分的ながらバイリンガルで、世界を視野に入れています。

第三に、公園や舞台、空中を使う展覧会を開催したことです。1955年に芦屋公園(通称:松浜公園)にて「真夏の太陽にいどむ野外モダンアート実験展」、1956年には同じく松浜公園にて「野外具体美術展」、1957年に梅田サンケイホールで「舞台を使用する具体美術」舞台展、1957年に高島屋デパート屋上で「国際アドバルーン展」を開催しています。

このように斬新で実験的な活動は、1957年来日したフランスの美術評論家ミッシェル・タピエにより、アンフォルメル*絵画理論として海外に紹介されます。この前年、1956年にライフ誌が「一日だけの野外展」非公開展示ということで、吉原製油西宮工場と今津浜で制作風景を撮影しましたが、残念ながら未発表に終わりました。1966年にはアメリカの芸術家でカリフォルニア大学サンディエゴ校教授アラン・カプローも、具体初期の活動をハプニング**の先駆として評価します。

*アンフォルメル(非定型の芸術):1950年代に展開された絵画における抽象表現主義の一動向。表現過程そのものを重視し、物質性と描く行為とを前面に押し出した。

**ハプニング:伝統的芸術形式や時間的秩序などを無視し、偶然性を尊重した演劇的出来事。

また、1962年には大阪中之島3丁目に吉原治良所蔵の土蔵を改装した「グタイピナコテカ」を開設します。「ピナコテカ」とは「絵画館」や「画廊」を意味する言葉で、ミシェル・タピエが命名。ここで会員の個展を開催してゆきますが、第一回目は嶋本でした。



解散後の展覧会

1990年以降、回顧展がローマ国立近代美術館、ドイツのマチルデンヘーエ美術館、パリのジュ・ド・ポーム国立美術館【写真:右】、ヴェネツィア・ビエンナーレでの野外展の再現、ニューヨークのグッゲンハイム美術館、国立新美術館、兵庫県立美術館など国内外であいついで開催されています。そして、2022年には中之島美術館と国立国際美術館で大規模な展覧会が開催中です。

嶋本昭三 世界4大アーティストへ

1998年に、ロサンゼルス現代美術館、ウィーン工芸美術館、バルセロナ現代美術館、東京都現代美術館を巡回した展覧会「Out of Actions」で、嶋本昭三はジャクソン・ポロック(アメリカ)、ルーチョ・フォンタナ(イタリア)、ジョン・ケージ(アメリカ)と並んで世界4大アーティストに選ばれました。

私は90年代以降の展覧会にはほぼ同行し、他の作家方とも交流させていただく機会もあり、大変貴重な経験を持ちました。嶋本昭三が吉原治良に出逢っていなかったら人生が変わっていたように、私にとって嶋本昭三に出逢えたことは人生で最も幸せなことで、関西学院の繋がりに感謝いたします。

★ 愛すべき、お茶目な嶋本昭三 ★

嶋本昭三も、弟子に絵の描き方を教えたことはありませんでした。その代わりに、もっと大切な、物の見方、考え方、人生の描き方を明るく楽しく教えてくれました。自分が褒められるより、弟子が褒められたほうが嬉しいと、喜ぶ。そして、偉そうぶらない。イタリアでは、「自分のことをみんなが“マエストロ(巨匠)”と呼ぶけど、どういう意味?」と尋ねてきました。

ある時、大阪駅で待ち合わせをしていたら、美人の外国人女性が隣にいました。「切符を買うのに困っているようだから、思わず“May I help you?”って声かけたけど、その後が続かへんねん」。

「高齢者介護施設に入ったらお絵描きの時間があるらしい。『下手ですね』って言われたらどうしよう?『上手ですね』って言われても困るなあ」。

私とは「波長が合う」と言い、仕事を頼む時も「頼りにしてるよ」、「半田さんのおかげ」と、かわいさ満開。大きな気を持った人で、一緒にいるとこちらまで大きな心持ちになれる、魅力的に生きた、愛すべき師匠です。

【1986年関西学院大学法学部政治学科卒業】

大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画

すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合

2022.10.22~2023.1.9(月曜休館、1/9は両館開館、休館日は両館のウェブページでお確かめください)

◆ 吉原治良、村上三郎、嶋本昭三、吉原通雄の作品をぜひご鑑賞ください ◆